

守山まるごと活性化計画 学区別会議実施記録 第3回

1. 実施概要

学区・回	中洲学区 第3回
日時	2013年8月21日(水) 20:00~22:00
会場	中洲会館
参加者	住民14人(新庄2人、服部4人、立田4人、幸津川2人、小浜2人) 濱崎先生、県立大学生1人 守山市(井入、木村、川上、坪内) 地域未来研究所(奥村、山田、前田)
会場設営	3テーブルを配置。くじでテーブルを指定して着席
実施経過	<p>1. 挨拶</p> <p>①開会挨拶(坪内課長補佐)</p> <p>②開会挨拶(本城学区長)</p> <p>2. 説明</p> <p>①本日の進め方(奥村)</p> <p>②第2回検討結果の説明(奥村)</p> <p>3. 意見交換(テーブル別ワーク)</p> <p>①前回のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議結果を整理した資料を見ながら、抜けているたからものの追加、分類の再検討を行った。 ・地域でお金を出し合って助け合う仕組み「講」を追加するよう意見があった。伊勢講、愛宕講、頼母子講(融通講)、行者講など、目的に応じてさまざまな講を活用してきた。 ・また、中洲地区の世帯数分のイルミネーションを飾る「ふれあいの灯」は外せないという意見があった。 <p>②学区のまちづくりの課題と方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区が抱える問題点や課題について議論したところ、各テーブルとも共通して「水」と「高齢化・人口減少」に関する意見が数多く出された。 ・カードは模造紙に貼り、グルーピングして概略の特徴を整理した。 <p>4. 結果の発表・共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブル毎に参加者の代表が地域の課題、課題に対応するための方針について検討結果を発表。 ・テーブルに共通して、「少子高齢化」、「野洲川や伏流水など水」「地域へのつながりに対する意識の変化(希薄化)」に関する課題が挙げられた。 ・今後のまちづくりの方向として、「野洲川で水や自然に親しむことのできる仕組み、河

川敷の公園化、きれいな水が里中を流れホタルが飛ぶまち」、「人口減少を食い止めるため、地区計画の検討・策定を進める」、自治会単位ではなく「学区全体で協力できることを考える」など、様々な意見が出された。

5. コメント（濱崎先生）

- ・人のつながりの強さや人柄の良さといったものが、少子高齢化によって薄れつつあるなど、たからものが「たからであったもの」になりかけているという意見が出ていた。
- ・課題の中に、水路に水が流れなくなったという意見があったが、滋賀県では川から埋渠で綺麗な水を引いている所がいくつかあり、昔は幸津川でも行われていたとのことであった。発想を変えて自由に考えると、何か次に繋がることも出てくるのではないかなと思う。

6. 次回の予定など

- ・次回会議の開催日時は、自治会長会議で決め、市からお知らせする。

第3回中洲学区会議の様子



2. 第3回学区会議の意見まとめ

地域のまちづくりの課題やまちづくりの方向性をまとめる。

<中洲学区のまちづくりの課題>

■水に親しめなくなっている

- ① 野洲川の河川敷へ気軽に降りていけない、荒れ放題の状態で行くと危ないと言われるようになってしまった。また、川に魚が減ってしまった。
- ② 伏流水がない、集落内の川に水がない。

■少子高齢化・人口減少

- ③ 若年層世代が流出するなど、少子高齢化が進展している地域である。空き家の増加も問題。
- ④ 老人世帯、独居老人の増加や、高齢化により自衛消防が成立しなくなってきている。

■地域の伝統・行事・活動の担い手不足

- ⑤ 青年団の人数が少なくなっている。原因は人が減っていることに加え、入る割合も減少。
- ⑥ 行事のスタッフは40歳以上が多く、20~30代の参加が少ない。
- ⑦ 地域の各種行事の担い手が不足し、伝統行事の継承困難、形骸化や消滅が危惧される。

■地域産業の衰退

- ⑧ 農業の後継者不足、農地の放棄による空き地の増加。
- ⑨ 大型店進出のため自営の小売業の縮小、後継者の確保困難。
- ⑩ そもそも、若者の働く場（会社など）が少ない。

■活気あるまちづくりを阻害する土地利用

- ⑪ 市街化調整区域のため家を建てるににくい。
- ⑫ 商店街などがなく、町に活気がない。また各自治会が離れているため学区の連続性が低い。

■集まる場所・イベントが不足

- ⑬ 若者が集まれる場が無く、活気に欠ける。

■公共交通が不便

- ⑭ 公共交通が不便な地域で、車に頼らざるを得ない。
- ⑮ 送迎必須の地域、特に1人暮らしの高齢者は不便。

■つながりが強すぎる

- ⑯ 地域のつながりが強すぎることで、新たに入ってくる人にとってハードルが高い部分がある。

2.1 地域のまちづくりの課題、方向

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
水に親しめなくなっている	野州川が気軽に親しめる川になっていない	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野洲川で子どもも高齢者も楽しく遊び、自然に親しむことのできる仕組み ○ 学区全体の目線で河川敷の公園化 ○ きれいな水が里中を流れ昔みたいにホタルが飛ぶまちな <p style="text-align: right;">など</p>
	気軽に野州川に降りていない	
	昔は身近な野州川であったが、遠く感じるようになった	
	川があまり流れないので汚く、雨水専用のような状態	
	河川敷が荒れ放題の状態で見守りがたく、危ない	
	川に魚が減った／川に魚が住めない	
	ホタルがいなくなった	
	野州川の伏流水が無い、集落内の川に水がない	
	湧き水がなく、環境が悪い	
	竹やぶがなくなっている	
少子高齢化・人口減少	高齢者が増えている	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区計画の検討・策定を進める ○ 若い人の意見を吸い上げて方向性・解決策の参考に <p style="text-align: right;">など</p>
	子どもが少なくなっている	
	80代でも農作業で若返りが必要	
	老人世帯・独居老人の増加	
	自衛消防が高齢化で成立しない	
	空き家が増えて行っている（アライグマ etc が住みついている）	
	過疎化	
	3年後位になると1年生に入学する子どもが8名ぐらいになる	
	若い人が少なく活気がない	
	若年層の流出	
人口が増える要素がない		

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
地域の伝統・行事・活動の担い手不足	青年団が少なくなっている（人が減っている＋入る割合も減っている）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学区で協力出来ることを考える ○ 「食文化」の伝承は女性が中心？→女性の地域活動への参加推進など
	行事のスタッフが40歳以上、20歳、30歳の人の参加が少ない	
	地域の各種行事の担い手が不足し、行事がこなせない	
	祭りに神輿を担ぎ手がいない（土日に仕事、部活がある/若い者がいない/意識がない）	
	伝統行事の継承困難、形骸化・消滅	
	小学生が少なく団体行動をしなくなっているため地域の行事が伝承できない	
	若年層だけでなく、全年代で地域へのつながり（近所、神社・お寺）が希薄化	
	次世代（若年層）の社会的価値観の変化	
	中学生～子どもができるまで人のつながりが希薄	
	子どもみこしは小学生だけなので、親世代のつながりがなくなる	
	老人クラブに入る人も減っている	
	地域とのつながり（仲間）に入れたい人をどうするのか？	
	ユニークな食も「過去形」になりつつある	
	鮎寿司も作るのが大変。「レンジでチン」世代は敬遠	
伝えることの難しさ		
地域の役をする人は男性が多い。女性の参加が不足。		

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
地域産業の衰退	空き地がやたらと多い（農地の放棄）	○ 企業を呼ぶ など
	自営の小売業の縮小（大型店の進出のため）、後継者の確保が困難	
	若い人が農業しない	
	若者の働く場（会社など）が少ない	
	農業後継者不足	
活気あるまちづくりを阻害する土地利用	市街化調整区域のため家を建てるににくい	○ 地区計画の検討・策定を進める など
	分家ができない	
	商店街などがなく、町に活気が無い	
	各自治会が離れていて学区としての連続性が低い（点から面へ）	
	道路整備が不十分	
集まる場所・イベントが不足	魚つかみイベントができる場所があると良い	○ 野洲川で子どもも高齢者も楽しく遊び、自然に親しむことのできる仕組み など
	若者が集まれる場がなく、活気に欠ける	
	人が集まる場所があると良い	
公共交通が不便	公共交通が不便（バスが少なく、2時間に1本の時間も）	○ ふれあい交通の活用 など
	車を使う人が多いのでバスの本数が減った	
	車に乗らざるを得ない、送迎必須の地域	
	特に1人暮らしの高齢者は不便	
つながりが強すぎる	つながりが強いことで新しい人が入りにくく感じる	-
	新しい人が入ることに対する人々の意識の違い（拒絶感を持つ人も）	